［特別講演］未来へつなぐシミュレーション教育

看護の未来へつなぐシミュレーション教育

東京医科大学医学部看護学科
副学長補・副看護学科長・教授　永島　美香

シミュレーション教育に関心を持ったのは、13年前。ある学会で外国製の高性能シミュレータに出会ったことがきっかけだった。当時、日本では看護教育でシミュレーション教育を実践している教員は僅かで、ましてや高性能シミュレータを配備している看護系大学は私が知る限りでは皆無だった。しかし、ここ数年、シミュレーション教育が注目され、看護系大学ではシミュレーションセンターの整備が進みつつある。そして、基礎教育においてシミュレーション教育を実践する、あるいは実践したいと考えている看護教員が急増している。

なぜ、看護の基礎教育にシミュレーション教育が求められているのか。それにはさまざまな理由があるだろう。看護教育の学習段階のスタンダードであるべき講義、演習、実習の一連の流れを通して行われてきた従来の教育方法では、現代の医療現場に適応するための看護実践能力を育成することが難しくなってきていることに教育を担うものが実感するようになった。そこで、シミュレーション教育が登場したと考える。シミュレーション教育は教育手法の一つで、「再現された看護場面に入り、看護実践を経験することで、必要な知識、観察力、判断力、実践力、チームワークを育む」ことができるといわれている。学内の安心した環境の中で繰り返し行われる。教員が一方的に講義をするのではなく、学習者が自分の学習目標を設定し、自ら考え、探求し、判断する。忠実性・再現性の高いシミュレータを使用することでモデルの生体反応から学生は臨床的推論を行い、看護の対象となる人に対して適切なケアを考え、創造していくことができるようになる。

但し、前述したようにシミュレーション教育は、教育手法の一つに過ぎない。看護実践能力を育成するためには、疾患の理解、基本的看護技術、対象を理解しアセスメントを行うために様々な知識や技術についての課題を達成する必要がある。そして、学生一人ひとりがそれらを習得していることがシミュレーション教育を行う上での大前提となる。

看護の基礎教育においてシミュレーション教育を導入するには、看護教員は経験的学習理論を十分に理解することが必要である。そして、インストラクショナルデザインに基づき計画されなければならない。その上で学習目標に沿って教育方法を考える。シミュレーション教育の限界を理解し、シミュレーション教育で学習目標の達成が難しいと考えられる課題に対しては、他の参加型学習方法などを組み入れる必要がある。

これからの看護基礎教育において、シミュレーション教育は必要不可欠な手法である。効果的なシミュレーション教育が行われたと実感したとき、学生は大変に生き生きとした達成感のある表情をしている。学生が看護を創造することの楽しさ、喜びを感じることができるシミュレーション教育をこれからも広めていくことが私の務めである。